

## 当院で CT 検査を施行された患者様へ

研究課題名: 導帯管の消失時期と萌出障害の関連性

研究組織: 九州歯科大学 歯科放射線学分野

研究代表者: 九州歯科大学 歯科放射線学分野 小田昌史

### 研究の意義・目的:

まだ萌出していない歯の萌出路には“導帯管”と呼ばれる構造が存在します。導帯管は歯と、その萌出部をつなぐトンネル状の骨欠損構造で、歯が正常に萌出するために重要な構造です。導帯管は異常がない歯にはほぼ全例に認められます。一方で、萌出障害を示す歯ではしばしば欠損や走行異常が認められることが報告されています。しかし、年齢が増すとともに消失するという時間的な変化についてはこれまで明らかになっていません。

本研究ではまず未萌出歯の導帯管が消失する年齢を明らかにします。それにより、その年齢より早く導帯管が消失した未萌出歯は萌出能力を失っており、その後も萌出が期待できないという仮説を検証します。すなわち、未萌出歯について導帯管をみることで、治療しなくても後に自然萌出する可能性があるのか、歯を引っ張り出す治療が必要なのかを判断することができるようになる可能性があると考えられます。よって、本研究結果は将来、過剰な治療を避けることにつながることを期待されます。

### 当該研究の方法:

2011年以降に施行されたCT画像を利用し、未萌出の歯に導帯管があるか否か、また、導帯管に異常がないかを詳細に再検討します。そしてそれらの結果を統計学的に検討します。

得られた結果は、学術学会や専門学術誌において発表します。その際、個人情報完全に保護した形とし、個人が特定されることは決してありません。診療情報が当該研究に用いられることについて患者さんにご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。この研究についてわからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、お気軽に下記の連絡先までお問い合わせください。

### 問い合わせ窓口:

研究責任者 小田昌史

九州歯科大学 歯科放射線学分野

〒803-8580 福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1 Tel 093-285-3094

メールアドレス: r07oda(at)fa.kyu-dent.ac.jp

※ (at) は @ に置き換えてください。